

CONTENTS

▶巻頭言

徒然なるままに

(性)日本染剤師会 副会技 工座 文人	4
▶トピックス	
JAPICサービスの紹介	
「効能効果の対応標準病名」の無料公開	4
「医薬品情報データベース iyakuSearch」	
院内採用医薬品集作成システム JAPIC PIA 機能追加!	6
▶コラム	
「顔の見える薬剤師」をプロデュース!	
(社)静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター 所長 大石 順子	8
最近の話題「新型インフルエンザ」	
(財)日本医薬情報センター 専務理事 村上 貴久	10
くすりの散歩道 No.24 俳句の季語からみた「薬」	
(財)日本医薬情報センター 業務・渉外担当 寺村 いく子	
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)	13

▶図書館だよりNo.228 ▶情報提供一覧 -------15



徒然なるままに

(社)日本薬剤師会 副会長 JAPIC副会長 土屋 文人 (Tsuchiya Fumito)



人生にはいろいろな出会いがあるが、私が大きな影響を受けたのは作家の柳田邦男氏と高専のロボコンの審査委員長等で有名な東京工業大学名誉教授の森政弘先生である。

工学部の先生をしていた父親の影響で、幼年時代から 工学関係者の後ろ姿を見ながら育ち、またヒューマンエ ラーを扱う人間工学についても門前の小僧的な知識と興 味を持っていたのは事実である。当時薬害スモンが問題 となっており、分析教室の田村善藏先生が裁判の話も含 めた講義をなさり、薬学を学ぶ者としてなぜ我が国にお いて薬害が繰り返されるのかに大いに関心を持った。

ちょうどその頃、当時NHK記者であった柳田邦男氏が羽田沖の全日空機事故について書いた「マッハの恐怖」という本を偶然本屋で発見した私は、読書嫌いであるにも拘わらず一気に読み終え、翌日にはその続編も読み切った。私が驚きと感銘を受けたのは、事故調査についての的確な問題点の指摘をはじめ、経済学部出身の著者がここまで工学のことに深く関わることができるのだという点であった。同時に、薬害やヒューマンエラーの防止にはシステム的な観点から考えることの必要性を自覚するきっかけとなった。航空機事故と薬害とは全く分野が異なるが、それをシステムとして考えた場合には多くの共通性が存在するのではないかとの思いを強く感じ、航空機事故に関する書籍を読みあさった。ヒューマンエラーとその防止策についての基礎知識を身につけること

ができたのは今から考えれば幸運なことであったともいえる。4年生の後半からは東大病院薬剤部に籍を置き、卒業実習を通じ薬剤部のシステム化の必要性を強く実感した。卒論のタイトルは「初心者の調剤エラー防止の方策」であり、それ以来「医療におけるヒューマンエラー防止」が私のメインテーマとなった。

森政弘先生との出会いは幼少の頃で、先生が私の自宅で父達と一緒に定期的に勉強会を行っているときからである。大学卒業後、東工大の森先生のところを訪ねた際に、「月に1回土曜日に勉強会をやっているから来ないか」という話になった。森先生の専門は自動制御であるが、ロボット工学の第一人者であるとともに、仏教にも造詣が深く「自在研究所」において勉強会を実施しておられた。

その勉強会には、工学部や理学部の教授をはじめ変わったところでは禅宗の僧侶も参加して、「自在に生きるためにはどうしたらよいか」ということを本当に幅広い話題についていろいろ夜遅くまで話をしていた。森先生は当時「非まじめのすすめ」という本を書かれ、私は「不まじめはもちろん困るが、まじめにも問題がある」という先生の指摘に大いに共感を覚えた。私はこの本が絶版になったことを本当に残念に思う。私は森先生の教えに大きな影響を受け、今でも講演では森先生から教えていただいた話を利用している。

森先生は、特許を取ると、それを回避する技術が考え 出される傾向が強いので、本当に自信のあるアイデアで あったら、むしろ特許を取らずに、広くそれを使わせるこ とを考えろとおっしゃって、それを実践されていた。皆が その技術を利用して、その先でエネルギーを使うことの 重要さを説いておられたのだと思う。特許を取得してそ れに見合った収入を得ることを悪いとは思わないが、何 か最近の世の中をみていると、あまりに経済的な面が強 調されすぎているような気がしてならないのである。もち ろん、特許を取った上でそれを自由に使わせるという方 法もあるであろうが、私は先生の考え方に強く共感を覚 える。

最近の我が国をみていると、何か哲学や信念が欠け、 プロが少なくなってしまった気がしてならない。自分の 論理を主張するだけでなく、なぜ相手側の論理も考慮で きないのか。作る側の論理ではなく、使う側の論理も考 慮しなくてはいけないと思う。平成14年に厚労省の医療 安全対策検討会議の出した報告書では医薬品に対して 「物の安全」と「使用の安全」という2つの概念の必要 性に言及している。ここには単にヒューマンエラー防止の みならず、薬害防止の観点も含まれていると思う。柳田邦 男氏と森政弘先生から受けた影響を、医療安全の実効 性ある対策を考えるという自分なりのライフテーマの実 現に向けて、今後の生き方の中でも大いに活用したいと 思う。

さて、最近配合剤が製造販売承認を受けつつある。配合剤の存在を否定するつもりはないが、製薬企業に対しては、配合剤に関する哲学があるのかと問いたくなってしまう。そもそも利便性と安全性はトレードオフの関係にある。このことが一番顕著に議論されるのが医療安全の場面である。我が国の医療を取り巻く環境や欧米と比べて劣悪な労働環境を考えるならば、極論ではあるが、医薬品の数を減らすことを考えることも安全確保の一つの手段といえる。少なくともただでさえ多すぎるといわれる医薬品を必要以上に増加させることのないような配慮を、国や製薬企業はすべきではないかと思うのである。

申し訳ないが、このところ出されている配合剤は、企業の身勝手な論理が最も顕著に示されているのではないかと思う。後発品促進が叫ばれている中で先発企業が企業防衛として対策をとることはある意味当然かもしれない。しかし、現在実際に組み合わされて使用されている実態があるのならそれなりに理解はできるが、このところ出されているものは到底そのようなものとは思えない。患者の利便性は実際の組み合わせの使用実態に即したものであるべきであり、配合の意義を示すにはまず現状において併用の実態が一定量を超えていることが大前提であろう。配合剤の利便性を主張するのであるならば、製薬企業が自らの論理で利便性を説くのではなく、医療関係者のみならず、患者の目線に立って、社会的責任を自覚した思い遣りの心を持って品位ある医薬品開発を行ってほしいものである。

IT化が医療安全に果たす役割は非常に大きいと考える。医薬品の適正使用を確保するためには、ITの積極的な支援が必要不可欠である。私は病院情報システムの中に、製造販売後調査に必要なデータを容易に作成できる機能を含めるべきであると思っている。医薬品の使用状況が「データ」として把握できるようになることが、極めて重要である。残念ながら、現在の病院情報システムではそのような機能を有していないのが実情である。製薬企業が医療情報学会との連携を深め、医薬品の使用実態のデータを容易に出すことができるような努力が必要だと強く思う。欧米に比して病院情報システムが普及している我が国であるからこそ、このような体制を早期に確立する必要があると思うのである。

医薬品情報もいろいろ存在しているが、残念ながら IT化に際しては極めて心許ないのが現状である。本来 JAPICが先頭をきって推進すべきであるが、現実として はそのような地位は獲得していないのは非常に残念なこ とである。医薬品の情報を扱うプロ中のプロとして、財団 法人として「使う側」の視点に立った活動を皆が望んで いるのではないだろうか。

JAPICサービスの紹介

■「効能効果の対応標準病名」の無料公開

開発の経緯

診療報酬請求 (レセプト) に使う病名は原則として標準病名 (ICD10) とされております。現実には、使用されている医薬品が妥当かどうか判断する場合には、添付文書の効能効果に対応する標準病名を選定する作業が必要であります。

JAPICでは添付文書情報や文献学会情報を30数年に わたり収集・加工している実績を活用し、公正・中立な立 場から添付文書の効能効果と標準病名の関連付けを行い、 データベース化し、JAPICホームページで公開いたしました。

利用方法

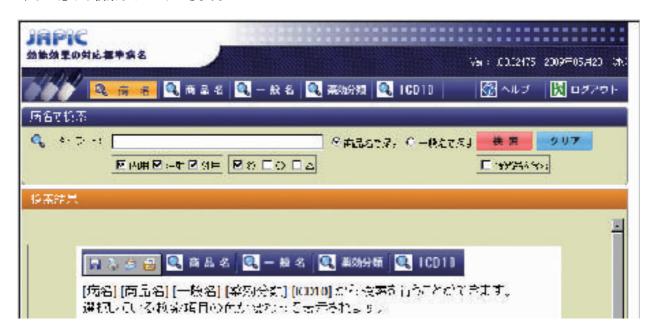
本システムは、医療用医薬品添付文書の「効能効果」に 対応する「標準病名」を関連付け相互に検索するものです。 「商品名」の他、「一般名」、「病名」、「薬効分類」、 「ICD10」から検索することができます。

データ概要

約1,700成分、約14,000品目の医薬品を収録しており、 病名はMEDIS標準病名マスターおよびJAPIC病名辞書 を使用しております。これにより成分に対して関連付けを 行った標準病名数は約7,000です。添付文書の「効能効 果」と対応する「標準病名」の結び付けは財団法人日本 医薬情報センター(JAPIC)が、専門家による妥当性の 評価を受けて独自に作成いたしました。

無料公開

この病名のデータベースは、内閣府IT戦略会議(平成20年2月)及び厚生労働省の意向を受け、平成21年4月に「効能効果の対応標準病名」として独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のホームページ(JAPICにリンク)からも一般無料公開をしております。





■ 医薬品情報データベース iyakuSearch

http://database.japic.or.jp/

iyakuSearchとは

JAPICが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースポータルです。

無料のデータベースを集約した"iyakuSearch" と、これに 有料 (利用機関向け) データベースを含めた"iyakuSearch Plus" の二つのトップ画面をご用意しています。

iyakuSearch

iyakuSearchは「医薬品情報データベースを医療関係者の方々に広く利用していただくこと」を目的に開発され、平成16年10月に「医薬文献情報」「学会演題情報」「規制措置情報(現在の「JAPIC Daily Mail DB」)」を公開し、同年11月に「医療用医薬品添付文書情報」を公開しました。

その後、「一般用医薬品添付文書情報」「臨床試験情報」「日本の新薬」「学会開催情報」「医薬品類似名称検索」とデータベースを追加し、平成21年4月に「効能効果の対応標準病名」をリリースしました。

☆NEW 効能効果の対応標準病名

医療用医薬品添付文書の効能効果に対応する標準病名を関連付け、相互に検索することができるサービスです。約14,000品目の医療用医薬品を収載し、約7,000の標準病名を掲載しています。データは月1回更新され、無料でご利用いただけますが、利用にあたり、利用者登録が必要です。

iyakuSearch Plus

平成20年4月にiyakuSearchのユーザIDとパスワードをお持ちの利用者の方や、会員機関の利用者の方向けのサービスとしてリリースしました。

それまで、ご利用のたびにログインが必要でしたが、クッキー認証やIPアドレス認証など、認証機能を充実・強化するとともに、利便性を向上するため、「医薬文献情報」検索結果から、J-STAGE (JST) で提供されている無料の電子ジャーナルへリンクします。

ログイン方法

iyakuSearchトップ画面右下にある [△ログイン] ボタンをクリックしてください。表示される、ログイン画面にお手元のユーザIDとパスワードを入力していただき、[ログイン] をクリックしてください。

ここで入力したユーザIDとパスワードはご利用のパソコンにクッキーとして登録されますので、次回iyakuSearchにアクセスすると、自動的にiyakuSearch Plusに誘導されます。

利用者登録

JAPIC維持会員機関に所属されている方は、無料でユーザ IDとパスワードを発行いたします。

iyakuSearch Plusへの利用者登録、IPアドレス認証等のお問い合わせにつきましては、業務・渉外担当までご連絡ください。 (TEL: 0120-181-276、E-mail: gyoumu@japic.or.jp)

iyakuSearchトップ画面右下の[利用者登録] ボタンをクリックしていただき、表示されるメンバー登録申し込みページに必要事項を記入し、お申し込みください。

JAPICサービスの紹介

院内採用医薬品集作成システム JAPIC PIA 機能追加!



JAPIC PIAは、院内医薬品集を病院内で、低コストで、MS Wordで簡単に作成することを目的としております。 添付文書の頻繁な改訂などで、院内医薬品集はあるものの改訂に間に合わない、また、印刷業者への高額な支払いは 難しい等のお悩みの医療機関の皆様に最適です。

添付文書情報データは、当センター添付文書情報iyakuSearchと直リンクしております。最新の添付文書イメージPDF を閲覧することができ、添付文書改訂情報や、新規採用薬の全文データを簡単にダウンロードすることが可能です。

◆JAPIC PIAの大きな特長 -

- 1. 医薬品集、採用薬一覧をMS Wordで作成
- 2. 目次 (薬効別)、索引 (商品順・一般名順) の自動作成 (適応症などのキーワード指定による逆引き索引)
- 3. 最新の添付文書をダウンロード(当センターiyakuSearchと直リンク)
- 4. 院内LAN上での採用薬添付文書情報の閲覧・持参薬から同一成分薬の検索
- 5. Excel、CSVデータへの出力可能
- 6. 同一成分薬の院外薬一覧の作成 (採用品同種同効薬 (類似薬) も表示)
- 7. 医薬品集配布後に改訂分、追加分の冊子作成
- 8. YJコード、JANコードから採用薬データの作成が可能
- 9. 添付文書情報以外の独自情報も追加編集可能
- 10. 後発品 (ジェネリック医薬品) の管理可能

この度、お客様からのご要望の多かった持参薬検索機能を追加いたしました。

持参薬検索機能として出力帳票・検索画面上・WEBページにて、今までの同一成分院外薬に追加して、院内採用薬情報に、 同種同効薬情報を新たに表示することになりました。

※ 薬効分類4桁が同一の場合、同種同効薬として扱います

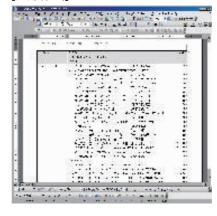
◆持参薬検索の追加機能

1.同一成分院外薬一覧出力にて表示

"採用品同種同効薬情報を付加する"にチェックを付けて戴くことで、院内採用薬の同種同効薬が存在する場合、院内採 用薬に続けて、印刷されます。



【出力様式】



<解説>

モーバー錠100mg の同種同効の採用 薬が存在する場合、 続けて表示されます。 この場合、ロキソニ ン錠以下20件該当 します。



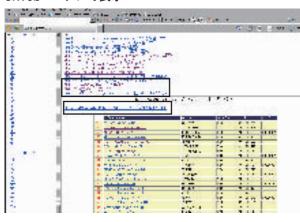
2.検索画面において表示



<解説>

画面上で、"採用品同種同効薬 (類薬) も表示する"の チェックを付けて戴く事で、院内採用薬の同種同効薬が 存在する場合、院内採用薬に続けて、表示されます。

3.Webページにて表示



【画面表示】



<解説>

持参薬検索時に、同種同効薬が存在する場合、 のリンクをクリックすると、同種同効薬の院内採用品が表示されます。

◆通信環境等

通信環境	インターネットエクスプローラ5.0以上 モデムによるダイヤルアップ I P 接続あるいは院内LANによる常時接続 *院内でインターネットの環境が使用できない場合、一般公衆回線で弊社クローズサー バーへ直接接続戴けます(モデムと一般公衆回線がお客様で必要です)			
必要なシステム	OS: Windows2000/XP/Vista Word2000/2002/2003/2007 画面解像度:1024×768以上			

◆価格

初年度利用料金	210,000円 (税込)	
2年目以降利用料金	サーバ利用料金	JAPICデータ利用料金
	10,500円/年 (税込)	21,000円/年 (税込)

※30日間無料お試し版 (CD-ROM) 受付中!

問合せ先 (資料請求)

事務局 業務·渉外 TEL 0120-181-276 FAX 0120-181-461

OLUMN

「顔の見える薬剤師」を プロデュース!





☆薬に関する相談窓口

全国の都道府県薬剤師会に設置されている薬事情報 センターと同じように、(社)静岡県薬剤師会の医薬品情 報管理センター(以下 県薬DIセンター)では、静岡県薬 剤師会の会員、そして、一般の方から寄せられる医薬品 や健康食品・サプリメント、身の回りの家庭用化学薬品 (食品添加物、洗剤)に関する問い合わせに回答をして います。

平成7年には、静岡県から高齢者医薬品等安全使用のための事業を委託され「高齢者くすりの相談室」を静岡県内4ケ所に併設し、現在の質問件数は月平均で730件を超えるほどになりました。

相談者の中には、処方された薬が変更になる度に電話で確認される方や、大型連休や年末年始の休みの前には相談できないことが心配になって電話をかけてこられる方、また、相談者を名指しされるリピーターの方も多く、回答への責任をひしひしと感じています。

☆薬剤師の職能を広くPR

このような電話による個々の相談に応じるだけではなく、県薬DIセンターでは情報発信を行い、本やパンフレットを作成したり、地元のテレビやラジオ局、新聞などを通じて、薬剤師の職能を広く知らしめています。

4月末には、6月1日から改正薬事法が施行されることにより、「医薬品の安心・安全な供給体制の確立」と「セルフメディケーションの推進」が実現するようになる、とマスメディアに情報を提供させていただきました。

ところがその反応は、「コンビニエンスストアや家電量 販店でも登録販売者がいれば薬を買うことができ、県 民にとっては便利になるのですね。」「第3類医薬品だけ がネット販売になると、長年、伝統薬を買っていた人や、 近くに薬局がなくてなかなか買いにいけない人、また、 恥ずかしくて店頭では買えない人は困るのではないで しょうか。 |*(注)

というように、利便性だけを追求して捉えられることが 多く、対応に苦慮させられることもあります。

そこで、医薬品には必ず副作用があるため安全性にウエイトを置くべきであり、安全性の担保のためには、「対面販売」という社会的な規制が必要であるということや、もともと薬事法は店舗にこだわり、対面販売を前提に明確な責任体制のもとで行われてきたため、無店舗販売というネット販売を全面的に容認するということであれば、これまでの考え方を大きく変えることになり簡単な議論ではない、ということを理解していただくように努力しています。

例えば、水虫の薬の場合、実際に患部をみて経過を聞くことがとても重要で、それによりどの薬が最適か判断しなければいけません。もし、単なる皮膚炎だった場合、水虫の薬を使うと悪化させる可能性があり、このようなことは対面でなければ行うことができません。

しかし、市販薬の安全性と利便性の問題は、今まで薬剤師が、どちらかといえば「処方せんの調剤」にこだわってきたことにより起きているのかと思うと、今回の改正薬事法は、開局薬剤師にとっても、更に研鑽を積み、薬剤師の職能を、自信を持ってPRしていかなければならないと思っています。

☆薬剤師の新職能「スポーツファーマシスト」

最近では、県薬DIセンターに、Jリーグやプロ野球チーム、トップアスリートからドーピング禁止薬の問い合わせが増え、ドーピング防止活動が薬剤師の新職能として認

められるようになってきています。

実は、薬剤師がドーピング防止活動に本格的に取り組むようになったのは、2003年の静岡国体からです。この国体から初めてドーピング検査が実施され、それに伴い、うっかりドーピングを防ぐには薬局のサポートが必要である、ということで、静岡県薬剤師会に協力要請がありました。

ドーピングとは、選手が競技成績を上げる目的で薬物などを使用する不正行為のことですが、故意に行われるものばかりではありません。いわゆる「うっかりドーピング」(禁止物質入りの市販薬やドリンク剤をそうとは知らずに服用してしまい、陽性反応が出ること)といわれるものがあり、これもドーピング違反とみなされ、記録抹消や競技大会への出場停止などの厳しい処分が下されます。

日本のドーピング違反のほとんどは「うっかりドーピング」で、薬の知識がない選手が体調を整えるために安易 に市販薬やドリンク剤を服用することが、スポーツ界では大きな問題になっていました。

このような実情の中、「うっかりドーピング」を回避する ために薬剤師とスポーツ界との協力体制が始まりました。

薬の専門知識がないスポーツ関係者や、市販薬にあまり詳しくない医師が、国際基準である世界ドーピング防止機構(WADA)の禁止表を頼りに医薬品を選択し、「うっかりドーピング」から選手を守るのは、実はとても難しいことです。その点、薬学の基礎がある薬剤師は、少し勉強するだけで応用力を働かせてアドバイスをすることができるため、薬剤師が関わることはとても意義のあることです。

日本アンチ・ドーピング機構(JADA)では、日本薬剤師会の協力を受け、ドーピング防止活動に従事する薬剤師「スポーツファーマシスト」の認定制度を創設しましたが、これもスポーツ界の薬剤師に対する強い期待の現れです。

薬剤師は、スポーツファーマシストとして、薬を必要とする選手に使用可能な薬を伝え、最良のコンディション作りをサポートし、また、学校薬剤師として、教育現場で求められる薬の知識の教育・啓発活動としてのドーピング防止活動も積極的に展開していかなくてはなりません。



SBSラジオ(静岡放送)スタジオにて収録

☆もっと「顔の見える薬剤師 | を目指して

雑誌の特集では、「薬剤師10年後3割失業」、「2020年薬剤師はこうなる!業務・報酬の二極分化で『あぶれ薬剤師』が続出か」、「薬剤師『失業時代』」などの見出しが躍り、薬剤師の未来は明るいものではありません。

本当にそうなのでしょうか?薬剤師は処方せんの調剤を行い、薬の飲み方や使い方などの説明や指導をしてはいるものの、まだまだ職能が国民に充分に浸透していない、ということなのでしょうか?

病気になって初めて診療に訪れる病院とは異なり、何となく体調が悪いという事で気軽に健康相談に立ち寄ることができる施設として、地域の薬局があります。そして、受診すべきかどうか、OTC医薬品で治せるか、食事に気をつけるべきか、また、スポーツ選手にはドーピング禁止ではない薬を選ぶ、などのアドバイスにより的確な医療コミュニケーションができるようになれば、薬剤師の評価は向上し、国民の医療に貢献できることは間違いありません。

「顔の見える薬剤師に」といわれて久しいですが、患者だけでなく、広く国民から薬剤師の様々な業務が理解され、誰からも信頼される「顔の見える薬剤師」としてもっと活躍出来るよう、県薬DIセンターでは、電波や新聞などのマスメディアを使い、一般の方への情報提供の一層の充実を図るとともに、かかりつけ薬局支援に今後とも取り組んでいくことができるよう、研鑽に努めたいと考えています。

*(注)薬の通販規制については、厚生労働省は5月中旬に、離島や継続使用者は2年間猶予される省令案を出しました。

新型インフルエンザ

(財) 日本医薬情報センター 専務理事 村上 貴久 (Murakami Takahisa)

皆様ご存じの通り、4月下旬にメキシコで新型インフルエンザの感染が報告されて以来、感染拡大を封じ込めるため、各国 で様々な対策が採られています。WHOはPandemic Alertのフェーズ5を宣言しました。

我が国では、国内への感染の侵入を防止するため、検 疫の強化が行われています。具体的には、全入国者に対 する問診表の配布、検疫ブースにおける問診票の提出と 検疫官のチェック、感染地域からの便については機内検 疫の実施、疑い例の隔離と濃厚接触者の停留(決めら れた宿泊施設内で一定期間外出禁止)等の措置が採ら れています。

この原稿を書いている間にも事態は急速に進展してお り、神戸の高校を中心として、国内において感染したと考 えられる患者が発見されました。検疫の強化による防衛 のステージは終了したと考えられます。

当初想定していたほど死亡者数が増加しないことから、 今回の新型インフルエンザは毒性が高くなく、通常毎年 はやる季節性インフルエンザと同じくらいなのではない かとの観測もありました。しかし、5月11日のサイエンス 電子版に掲載されたWHO (世界保健機構) の専門家グ ループによる論文によれば、今回の新型インフルエンザ 感染による致死率は、0.3%から1.5%の範囲にあって、お そらく0.4%と推定されるとのことです。

この数字は、1918年に流行した「スペイン風邪」によ る死者数4000万人、致死率2%に比べると小さいです が、1957年に流行した「アジア風邪 (死者200万人)」や 1968年に流行した「香港風邪 (死者100万人)」の致死 率0.5%とほぼ同じ数字で、気を許してはならないことが わかります。ちなみに季節性インフルエンザの致死率は 0.05%程度と推定されています。

インフルエンザウイルスは、分類学上オルトミクソウイ ルス科に属するRNAウイルスです。インフルエンザウイル スには、A、B、Cの3つの属があります。このうち、Cは、

季節に関係なく、主に小児に感染するもので、症状の現 れないことも多く、成人の多くは知らないうちに感染履 歴を持っており、獲得した免疫はおそらく一生持続する と考えられています。インフルエンザウイルスA及びBは、 季節性インフルエンザの原因となるもので、構造も類似 していますが、Bは変異が急速に起こらないため、比較 的長く免疫が持続することがわかっています。

インフルエンザウイルスAは、他の属と異なり、属内の 変異が多く、このため、一度このウイルスに罹患したとし ても、一般的にAに対する免疫を獲得できるわけではあ りません。これはこのウイルスの特徴的構造によるもの

インフルエンザウイルスAは、8本のRNA分節(セグメ ント)がエンベロープに包まれた構造をしており、エンベ ロープ表面にはヘマグルチニンとノイラミニダーゼという 2つのタンパク質がスパイク状に突き出しています。8本 のRNA分節は、それぞれがヘマグルチニン、ノイラミニ ダーゼ、RNAポリメラーゼサブユニット等をコードして います。ヘマグルチニンはウイルスが宿主細胞に吸着す る働きを担うタンパク質です。また、細胞内でポリメラー ゼで多量に複製されたRNAはノイラミニダーゼの働きで ウイルスとなって細胞から遊離します。この際、8種類の RNA分節は各RNA末端のパッケージング配列を相互認 識し、8種類がひとつのエンベロープに包まれるように遊 離していきます。

いってみれば、おでんの鍋の中から、8種類のタネを1 個ずつ皿に盛るようなものです。

ヘマグルチニン (HA) とノイラミニダーゼ (NA) の抗 原性は、そのウイルスに対する免疫の獲得に大きな影響 を与えますが、インフルエンザウイルスAについては抗原

性の大きな違いから、HAは16種類、NAは9種類存在す ることが明らかになっています。すなわち、この二つのタ ンパク質の組み合わせにより、H1N1からH16N9まで、 144の亜型に分類できます。インフルエンザAの場合は亜 型が異なると、免疫反応も異なりますし、感染する動物 種が異なったり、感染力が大きく異なったり、毒性が異 なったりするのです。

先に述べた、季節性インフルエンザは、「Aソ連型」が H1N1、「A香港型」がH3N2、H1N2、H2N2で、大流行 した「スペイン風邪」はH1N1、「アジア風邪」はH2N2、 「香港風邪」はH3N3でした。

本来、鳥に感染するインフルエンザウイルス亜型は人 には感染しにくいものですが、大量のウイルスに曝露す るなどすると、感染が成立することがあります。このと き、人に感染しやすい亜型のウイルスに宿主が同時に感 染していると、宿主の感染細胞内では8本のRNA分節の 組み替えが簡単に起きます。おでんを炊いていた鍋の中 に別の鍋のおでんを混ぜてしまうと、区別がつかなくな るようなものです。こうして種間感染を繰り返すうち、感 染力が強化され、毒性も強くなったウイルスが発生する 可能性があるのです。

数年前から、インフルエンザウイルスの世界的流行に よって多数の死者が出る危険性が指摘され、WHO及び 各国は事前の対策を講じてきました。その際に想定され ていた状況は、東アジアでニワトリ等の家禽類に流行し ている鳥インフルエンザ (病原体はインフルエンザウイル スA・H5N1)が人型に変異し、蔓延するというものでし た。この想定は、鳥インフルエンザの致死率が高く、感 染した鶏舎のニワトリの9割が死亡すること、東南アジア で家禽から感染し、死亡した人の症例が既に多数報告 されていること等から、当然だと思います。日本の厚生労 働省を含め、先進各国はH5N1に対するワクチンを「プレ パンデミックワクチン」として備蓄しています。プレパンデ

ミックワクチンとは、まだ蔓延が始まる前に、発生する可 能性のあるウイルスを選んで作ったワクチンのことです。 H5N1亜型の中にも変異がありますので、こうやって作成 したワクチンが本当に効くかどうかはわからないのです が、万が一のために備蓄しているのです。我が国の備蓄 量は3千万人分で、これでは少なすぎると批判されていま した。しかし、今回の新型インフルエンザは、初発がメ キシコで、豚型から人型に変わったと考えられ、亜型は H1N1でした。自然は意表を突いて襲ってくることがわか ります。

この原稿を書いている間にも状況は急速に進行し、我 が国の中で起きた人-人感染によると考えられる患者数 は100人を超えました。症状のある人がさらに100人単位 でいるようなので、感染は既に相当広がっていると思わ れます。WHOの専門家グループの推定が正しければ、 国内の感染者数が千人を超えたあたりで最初の死者が 報告されることになる可能性があります。

全世界の感染者が8000人を超えたあたりで、米国の CDC (疾病対策センター) の専門家が、「患者数をカウ ントすることはもはや意味があまりない。地域的な傾向 を把握することができるくらいだ」と言っていたのが印 象的でした。その専門家によれば、米国における感染者 は、あえて推計するなら、既に十万人を超えているだろう とのことでした。

季節性インフルエンザによる死亡者は、ここ数年、数 百人から千人の間で推移してきており、これに比べると、 パニックになる必要はないと思います。ただし、季節性イ ンフルエンザによる死亡者のうち8割が65歳以上のお年 寄りなのに、今回の新型インフルエンザはむしろ60歳以 上はかかりにくいように見えます。若年者を保護するため にどのような対策がとれるか、考える必要があります。

俳句の季語からみた「薬 |

(財) 日本医薬情報センター 事務局 業務・渉外担当 寺村 いく子 (Teramura Ikuko)

俳句をはじめて数年経ちますが、最近ようやく17 文字の短い詩の様式におもしろさと難しさを実感す るようになってきたところです。つくることにより今 まで意識しなかった、日本語の持つ奥深さと魅力に 触れ、楽しみが広がってきました。

『歳時記は日本という風土の自然現象と生活と美 意識とを長い歳月のあいだに選択し、分類し、そし て集成、体系づけたものである』*注)

*注) 現代俳句歳時記 (角川春樹事務所1998)

俳句を詠む人にとって季語をまとめた歳時記は必 須のものであり、また、季語は誰もが思い描くことが できる共有語になっています。しかし気候変動や生 活様式の変化は季語にも影響を及ぼし、失われた 季語、すでに使われなくなった季語がかなりあるこ とは想像できます。

台湾で俳句を詠む人達が、日本の歳時記では台 湾の季節や自然に合わないため、独自の歳時記を 編集したという新聞記事を、昔読んだことがありま す。日本の季節感にもとづく季語とは異なる台湾季 語を創設したとありました。

日本の50年にわたる統治時代に俳句が台湾の 人々の間で支持され、作られたことにも驚きます が、日本語をたいせつにうつくしい言葉として今も 使っている人の存在に目を見張る思いがします。イン ターネットで調べてみますと「台湾俳句歳時記」とし てその本は現在も流通しており、『台湾の風土、風 物、人事をあらわすにふさわしい季語396』を『著者 無類の洒脱でうつくしい日本語による解説が付さ れ、台湾俳人による例句が各9句掲げられている』 とあります。大変興味深い本です。

さて本題の歳時記に「薬」はどのような季語で 載っているのでしょうか?

「季寄せ」(角川春樹編)の索引から「薬」をひ いてみると確かにありました。

- (夏) 薬降る(薬日、神水)、薬玉 薬狩り(薬の日、薬草摘み)
- (秋) 薬掘る(薬採る、薬草掘る)
- (冬) 薬喰い、ひび薬、霜焼け薬

(新年) 薬子(くすりご)

どの季語も現代の生活とは縁遠いものばかりで す。これらの季語を眺めていると薬にこめられた昔 のひとの生活や思いが想像できます。

- ・薬降る 陰暦5月5日を「薬日」(くすりび)といい、 この日午の刻(昼12時前後)に降る雨。
- ・薬狩り 5月5日山野に出て、薬草を採ること。 その日に採ったものは特に効き目がある と言われた。
- ・薬掘る 秋に薬草の根を掘ること。 くらら・せんぶり・りんどう・ききょうが対象。
- ・薬喰い 体力をつけるために寒中栄養食をとること。 鹿や猪を食うことは、はばかられたので 薬喰いと言った。
- ・薬子 天皇に薬を差し上げる行事。屠蘇、白散、 度樟散を三が日に服するという中国伝来 の儀式。

これらの季語はやがて失われていくものになる のでしょう。共通語として機能しない言葉は使われ なくなり歳時記からも消えていく。「薬」の季語は そんな運命にあるようです。歳時記の改訂は10年に 一度は必要といわれていますが、誰もが共有できる 「薬」を表す新しい季語はこれからうまれてくるの でしょうか?

蘭学の書生なりけり薬喰 正岡子規

買ひためて信濃の子等へひび薬 加藤楸邨

我眼にはくすり降る日も雨の露 乙二

薬堀蝮も提げてもどりけり 太祇

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より - (抜粋)

2009 年 4 月 1 日~4 月 30 日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.197-201) より抜粋

【米FDA】

- ●有害事象報告システム (AERS) の統計 (2008年12月31日現在)
- ●米FDA、ceftriaxoneとcalcium含有製品の相互作用に関して、以前に発行された注意喚起(FDA Alert)の情報を 更新
- ■MedWatch 「安全性に関する表示変更 (2009年3月) | -要約
- ●米FDA、消費者による安全な使用のため、OTCの鎮痛剤および解熱剤の表示変更を要請:これら製品の使用に 関連した胃出血や肝障害などの安全性リスクについて、注意喚起 (warning) の項に含めるよう要請する最終規則 を発表 (本措置の対象製品; acetaminophen (paracetamol)、aspirin、ibuprofen、naproxen、ketoprofenなどの NSAIDs)
- ●米FDA、抗てんかん剤の表示変更を医療専門家に通知(自殺念慮および自殺行動リスクの増加に関する警告を含 める)、Medication Guideの作成も行われるなど
- ●CellCept (mycophenolate mofetil) およびMyfortic (mycophenolic acid) のリスク評価・緩和戦略 (REMS) に関 するレビューの実施について
- ●米FDA、全てのBotulinum Toxin製品について枠囲み警告の追加を要請:実施中の安全性評価の結果を受けて、 製品表示において警告を強化し、毒素の影響が注射部位以外にも拡大した場合の有害事象リスクに関して枠囲 み警告を追加する必要があると通知(新たな表示およびREMSが要請された製品;BotoxおよびBotox Cosmetic (botulinum toxin type A), Myobloc (botulinum toxin type B), Dysport (abobotulinumtoxin A))
- ●米FDA、Testosteroneジェルの安全性懸念により、表示変更およびMedication Guideを要請:2つのtestosterone 局所ジェル製品AndroGel 1%およびTestim 1%の製品表示による治療を受けている他者への接触を介して、不用 意にtestosteroneに暴露した(二次的な暴露)小児における有害作用の報告を受けて

【 米CDC 】

- ●コレラのアウトブレイク---スーダン南部、2007年
- ●小児2例におけるブタインフルエンザA (H1N1) 感染、米カリフォルニア南部、2009年3月~4月
- ●HIV感染症---中国広東省、1997年~2007年

Health Canada

- ●Amgen Canada Inc., TNF阻害薬ENBREL (etanercept) のヒストプラスマ症および他の侵襲性真菌感染症に関 する安全性情報を更新
- ●Hoffman-La Roche Ltd.のHerceptin (trastuzumab) と羊水過少症の関連性について;妊娠中の使用について新た な重要安全性情報を、医療専門家および一般に対して通知

[EU·EMEA]

●EMEA・CHMPの4月会合 (2009年4月20日-23日開催) の月間報告: abacavir、Doribax (doripenem)、valproic acid, carbapenems, Tarceva (erlotinib), Enbrel (etanercept), CellCept (mycophenolate mofetil)

(次頁に続く)

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より - (抜粋)

【英MHRA】

- ●CP Pharms.のMultiparin / Monoparin Products (Heparin Sodium) 注射液に関するClass 4 Drug Alert (Caution in use) (過硫酸化コンドロイチン硫酸 (OSCS) の汚染について)
- ●医療専門家向け医薬品安全性情報 (2009年3月) 発行分: ReFacto AF moroctocog alfa (recombinant coagulation factor VIII), Arixtra (fondaparinux)
- ●Press Release:salicylate含有口腔ジェルに関する英MHRAの新たなアドバイス(16才未満において使用しないこと)

【独 BfArM】

●Trasylol (aprotinin): 承認停止の延長について

【厚生労働省】

- ●第5回重篤副作用総合対策検討会資料
- ●フィブリノゲン製剤等の納入先医療機関における製剤の使用実態及び当該製剤を使用された患者における肝炎 ウイルス感染等の実態に関する研究について

【 ニュージーランド Medsafe 】

●小児におけるcholine salicylate含有teethingジェルの使用に関する最新情報;ニュージーランドMedsafeは、2製品 (Bonjela Teething Gel, Bonjela Mouth Ulcer Gel) について推奨用量で使用した場合に、これら製品の安全性が 許容されるとしているなど

【国際機関 WHO 】

●WHO Pharmaceuticals Newsletter (2009年、No.2) : aliskirenのVigiBaseにおける報告 (血管浮腫)、小児に対 するOTCの鎮咳・感冒薬の新たなアドバイス、欧州および他国におけるefalizumabの販売停止(治療患者における 進行性多巣性白質脳症 (PML) に関連して)、efalizumabのVigiBaseにおける報告 (中枢および末梢神経系障害な ど)、metoclopramideのVigiBaseにおける報告(遅発性ジスキネジア)、Global Advisory Committee on Vaccine Safety (GACVS) の第19回会合におけるロタウイルスワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンの安全性プロファイ ルに関するトピックスなどについて

【医薬品医療機器総合機構】

●使用上の注意の改訂指示(平成21年4月24日指示分): イソフルラン、トレミフェンクエン酸塩、 オルメサルタンメドキ ソミル、酸化セルロース、ソラフェニブトシル酸塩

【厚生労働省】

- ●ブタインフルエンザに対する対応について(事務連絡)、WHO事務局長の発言、メキシコ及び米国におけるインフル エンザ様疾患の発生状況など
- ●新型インフルエンザ (豚インフルエンザH1N1) に係る症例定義及び届け出様式について
- ●新型インフルエンザ最新情報:新型インフルエンザが蔓延している国又は地域について、新型インフルエンザに係 る積極的疫学調査の実施等についてなど

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当



【新着資料案内 平成21年4月9日~平成21年4月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm) の図書新着案内でもご覧頂けます。 これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	著者名	出版社名	出版年月
毒物劇物取締法事項別例規集 第10版	毒物劇物関係法令研究会 監修	薬務公報社	2009年2月
GCPハンドブック 医薬品の臨床試験の実施の基準 第4版	渡邉 裕司 編	じほう	2009年3月
医薬品製造 (輸入) 承認品目一覧 2009年版 (2008年1月~12月承認分)	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2009年4月
自殺未遂患者への対応 救急外来 (ER)・救急科・ 救命救急センターのスタッフのための手引き	日本臨床救急医学会 「自殺企図者のケアに関する委員会」	日本臨床救急医学会	2009年3月
今日のOTC薬 解説と便覧	中島 恵美、伊東 明彦 編	南江堂	2009年4月
厚生労働科学研究費補助金 医薬品·医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 国際的整合性を目指す医薬品等の品質、有効性及び安全性に関する研究 平成20年度総括研究報告書	井上 達 他	国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター	2009年3月
L'Informatore Farmaceutico 2009 69 edizione	Wubbo Tempel	Elsevier S.r.I	2009年
日本造血細胞移植学会 平成20年度全国調査報告書	日本造血細胞移植学会 データセンター	日本造血細胞移植学 会データセンター	2009年3月
OTC医薬品の基礎知識 第2版	中島 恵美 監修	じほう	2009年3月
ViDAL de la famille Le dictionnaire des medicaments	Jean-Francois Forget	Vidal	2008年
薬事ハンドブック2009		じほう	2009年3月



✓ 情報提供一覧

【平成21年5月1日~5月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当(TEL 03-5466-1812)までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等		
〈出版物等〉			
1. 「医薬関連情報」5月号	5月29日		
2. 「Regulations View Web版」No.166-167	5月15日・5月29日		
3. 「添付文書入手一覧」 2009年4月分 (HP定期更新情報掲載)	5月29日		
4. [JAPIC NEWS] No.302	5月29日		
5. JAPIC「医療用医薬品集」 2009更新情報 2009年5月版	5月末日		
<医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等> (FAX、郵送、電子メール等で提供)			
1. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」 No.685-687	毎 週		
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週		
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日		
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に 関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1943-1960	毎日		
5. JAPIC Weekly News No.205-207	毎週木曜日		
6.「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.291-293	毎週月曜日		
7. 「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日		
8.JAPIC「医療用医薬品集」2009更新情報2009年4月版	毎月10日		

· 奶点 水奶 [97] [5] (1 EE 00 0 100 1012) & C45 / G	, - ,	_	
JAPIC作成の医薬品情報データベース 更新日		B	
(iyakuSearch) Free http://database.japic.or.jp/			
1. 医薬文献情報	月	1	
2. 学会演題情報	月	1	回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月	2	
4. 一般用医薬品添付文書情報	月	1	回
5. 臨床試験情報	随		時
6. 日本の新薬	随		時
7. 学会開催情報	月	2	
8. 医薬品類似名称検索	随		時
(iyakuSearchPlus) http://database.japic.or.jp/nw/index			
1. 医薬文献情報プラス	月	1	回
2. 学会演題情報プラス	月	1	
3. JAPIC Daily Mail DB	毎		日
4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月	1	
外部機関から提供しているJAPICデータベース			
〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/			
〈JST JDreamIから提供〉 http://pr.jst.go.jp/jdream2/			

サイド ボジャピ35年の伝統を守り薬剤師を中心とした 専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2009年

医療用医薬品集2010 (檢索用CD-ROM付)



■本書の特長

- ◆35年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用CD-ROM(非インストール版)付
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」 (冊子。 別売2,940円 税込) の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供 (要登録)
- ◆シールタイプの更新情報サービス (有料)

■検索用(非インストール版)CD-ROMとは

- ◆収録内容 ○医療用医薬品集
- ◎薬価情報
- ◎一般用医薬品集
- ◎後発品の全情報
- ◎薬剤識別コード一覧
- ◎医療用医薬品の最新添付文書画像(PDF)の表示 機能付(無料・要インターネット接続。PDFは月2回更新)

定価:8,000円(税込)

(※インストール版は15,000円(税込)で別途販売しております。)

13,650円(税込)

B5判/約3.300頁

ジャピック 財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC) 丸善 出版事業部

編集·発行 TEL 0120-181-276 発売 TEL 03-3272-0521

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の 販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276)まで。

このコーナーは薬用植物や 身近な植物についてのヒトクチメモです。 リフレッシュにどうぞ!!

センダン

このセンダンの花は特別である。センダンは牧野富太郎博士によっ て学名(Melia Azedarach L. var. japonica Makino)がつけられた が、博士は自宅の庭にセンダンを植えられた。その庭は、現在、練 馬区立牧野記念庭園となり、そのセンダンは大木となって、毎年五 月から六月に多数の花をつける。その花の写真である。5枚のうす 紫の花弁が筒状の花をなして、花からは芳香が放たれる。なお、 「センダンは双葉より芳し」のセンダンは、白檀 (ビャクダン) のこと であり、センダンとは異なるのである。(hy)



JAPIC ホームページょり http://www.japic.or.jp/

HOME

サービスの紹介



ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。